

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	02	01	15		被災者支援事業	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-4	日常生活の安全確保			
	施策	1	生活相談の充実			
目的	市内に在住する震災被災者に対する支援を充実させる。					
対象	震災により被災し、市内で居住する被災者及び被災地の児童生徒					
意図	市内で居住する被災者の交流活動の促進と生活の安定のため経済的な負担を軽減するとともに被災者児童生徒の心のケアを図る。					
事業概要						
<p>○被災者生活支援事業 引越しに要する経費の補助 1世帯100,000円を限度とする。 65歳以上の高齢世帯員で乗用車を所有していない者へのタクシー券の助成</p> <p>○被災者交流活動支援事業 花巻市内に活動の本拠地を置き被災者を支援している団体（個人を除く）が行う被災者の交流事業等の経費（使用料会場賃料、バス借上料、印刷製本費等）を助成する。</p> <p>○被災地支援復興コンサート開催事業負担金 被災地の子どもたちと市内の子どもたちがコンサートを介して交流する。 開催期日 平成26年11月22日（土）13:00～15:00 開催場所 花巻市文化会館大ホール</p> <p>○被災者世帯灯油代等助成事業 沿岸被災者の冬期間暖房等に要する経費の助成 1世帯5,000円</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		○ 共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 交流会開催回数	回		計画			
			実績			
② コンサートの招待者数	人		計画		400	
			実績		189	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 交流事業参加実世帯数	世帯		目標		100	100
			実績		86	
② コンサートの参加者数	人		目標		400	400
			実績		601	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
平成26年4月3日（木）から14日（月）に実施した被災者世帯への困りごと訪問調査の結果は、①病院への通院が大変である。②地域とのつながりが無い。③被災者が集まれる場所がほしい。などが多く、同時に実施したアンケート調査（222世帯中、146世帯回答）の結果では、①近所との交流が全くないが16世帯、②相談員の訪問を希望するが17世帯、③身体・心の健康相談を希望するが29世帯であった。被災者は、高齢者世帯が多く、病院への通院が大変なことや近所とのつきあいが無いなど、孤立している状況があるため、経済的な負担の軽減、地域や被災者同士の交流促進が必要と考える。また、住宅の再建や避難元への帰郷を予定している世帯への援助も必要である。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	東日本大震災は未曾有の災害であり、沿岸の被災者を内陸の自治体が支援することは必要不可欠である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	この事業の実施により、被災者世帯の経済的な負担の軽減や近隣とのつきあい・交流の促進や高齢世帯の見守りにつながる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	被災者生活支援事業は、災害寄付金を充当するものである。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	東日本大震災は未曾有の災害であり、沿岸の被災者を内陸の自治体が支援することは必要不可欠である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・定住支援 引越補助金事業を行い12世帯に補助金交付をした。 ・経済的支援 タクシー券助成を行い24人にタクシー券交付をした。 灯油代等助成を行い26世帯に助成を行った。 ・交流支援 被災者交流活動補助事業を行い1団体9事業に補助金を交付した。 		

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	17	0408	被災者支援事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			2,969	4,904	2,969
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源		2,969	4,904	2,969

事業期間	単年度繰返	○	期間限定	[平成 26 年度 ~ 平成 28 年度]
------	-------	---	------	-----------------------

部重点施策における目標
震災被災者対策の充実

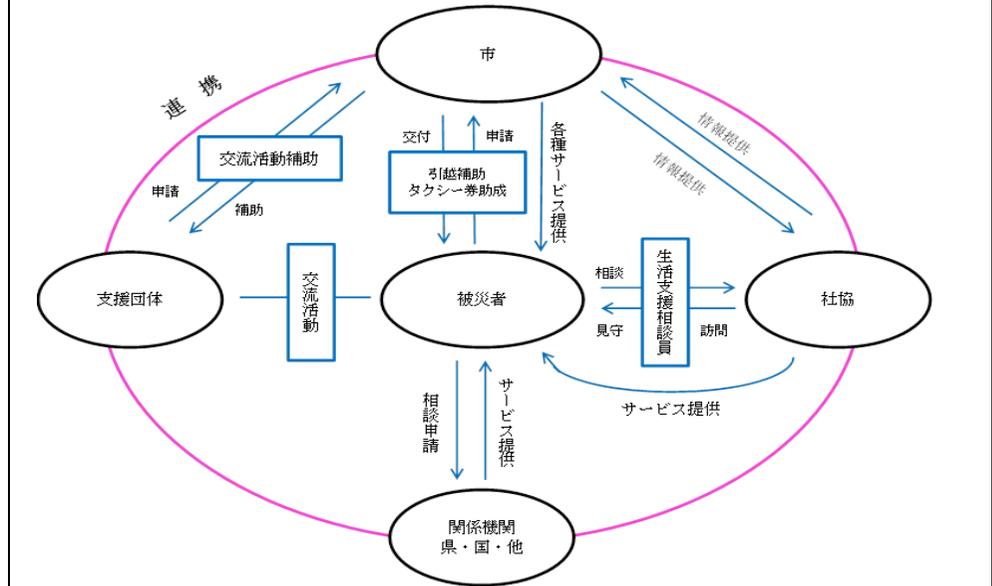
事業開始の背景・経緯
市内に居住する被災者のなかには、今後の生活に不安を抱いている方が多く、被災者の生活を安定させるとともに、被災地の子どもたちの心のケアを行う。

事業概要

- 被災者生活支援事業
引越しに要する経費の補助 1世帯100,000円を限度とする。
65歳以上の高齢世帯員で乗用車を所有していない者へのタクシー券の助成
- 被災者交流活動支援事業
花巻市内に活動の本拠地を置き被災者を支援している団体（個人を除く）が行う被災者の交流事業等の経費（使用料会場賃料、バス借上料、印刷製本費等）を助成する。
- 被災地支援復興コンサート開催事業負担金
被災地の子どもたちと市内の子どもたちがコンサートを介して交流する。
開催期日 平成26年11月22日（土）13：00～15：00
開催場所 花巻市文化会館大ホール
- 被災者世帯灯油代等助成事業
沿岸被災者の冬期間暖房等に要する経費の助成 1世帯5,000円

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
被災者は、高齢者世帯が多く、病院への通院（車がなくタクシーを利用）が大変なことや近所とのつきあいが無いなど、孤立している状況があるため、経済的な負担の軽減、地域や被災者同士の交流促進が必要と考える。また、住宅の再建や避難元への帰郷を予定している世帯に対し支援が必要と考える。

《事業手法の詳細》



- ・被災者生活支援事業 2,338 100×16世帯、9,000円×82人
- ・被災者交流活動支援事業 3,000 1事業50万、1団体100万円を限度、100%補助

・27年度以降の事業内容および事業費

事業内容

- 被災者生活支援事業
 - ・引越しに要する経費を補助
 - ・65歳以上の高齢世帯で乗用車を所有していない者へのタクシー券の助成
- 被災者交流活動支援事業
花巻市内に活動の本拠地を置き被災者を支援している団体（個人を除く）が行う被災者の交流事業等の経費に対し補助する。

事業費

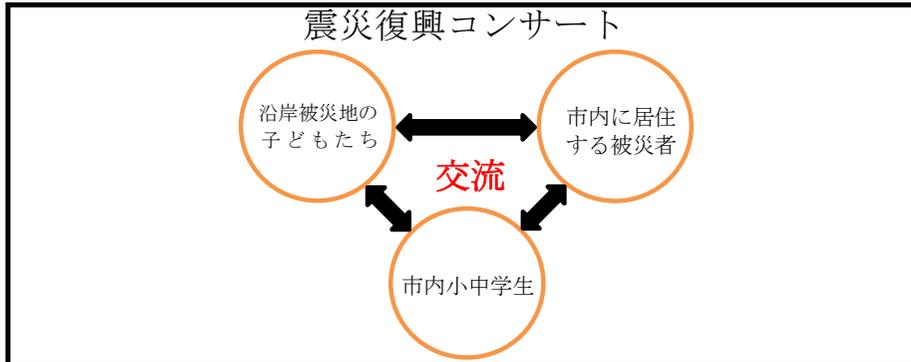
26年度事業費	27年度事業費	28年度事業費
2,969	4,904	4,904

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	17	0408	被災者支援事業

(単位：千円)

《事業手法の詳細》



・震災復興コンサート開催事業負担金 1,000

・演奏を含む3部構成。奇跡の一本松で製作したバイオリンや賢治のチェロ、宮沢家のピアノを含む弦楽三重奏と花巻市金星少年少女オーケストラとのコラボレーション
(開催経費)

①演奏者謝礼	622,781	奏者謝礼ほか
②印刷製本費	430,460	チケット及びチラシ
③沿岸被災地の子どもたちの送迎費	200,000	大型バス2台
④食糧費	161,319	被災地招待児童昼食費ほか
⑤使用料	154,405	ピアノ調律ほか
⑥事務費	6,147	消耗品
⑦返還金	34,918	負担金返還金
	計	1,610,030円

(収入)

①補助金	1,000,000	市負担金
②入場料	610,000	前売券571枚、当日券30枚
③雑入	30	
	計	1,610,030円

○市負担金積算根拠 災害支援金(寄付金)は、被災地児童生徒に係る分を負担金とする。

経費③+④=538千円・・・(1)

その他の経費 1,262千円・・・(2)

全体参加者1,000人に対する被災者300人・・・30%(2)×30%=378千円(3)

(1)+(3)=916⇒切り上げ⇒1,000千円

○被災者生活支援事業

・引越しに要する経費の補助

助成額 実際に要した経費(ただし、1世帯100,000円を限度とする。)

対象者(見込み) 16世帯(アンケート結果より)

住宅再建の目途が立っている:6世帯 → 10世帯

故郷で賃貸住宅:4世帯 → 6世帯

100,000円 × 16世帯 =1,600,000円

【実績】12世帯 632,075円

・65歳以上の高齢世帯で乗用車を所有していない者へのタクシー券の助成

助成額 1枚500円の助成券を1月あたり2枚として申請日の属する月から年度末までの分を一括交付する。

対象者(見込み) 高齢単身:26人、高齢世帯:56人(高齢世帯数28世帯)

7月~3月 9,000円 × 82人 = 738,000円

【実績】24人交付 使用枚数331枚 165,500円

・沿岸被災者の冬期間暖房等に要する経費の助成

助成額 1世帯5,000円

対象者(見込み) 高齢者・母子・父子世帯:54世帯、生活保護世帯:11世帯
その他:10世帯

【実績】26世帯 130,000円

○被災者交流活動支援事業

・東日本大震災による被災者への継続的な支援を促進するため、花巻市に活動の本拠地を置き被災者を支援している団体(個人を除く)が、花巻市内において被災者間及び被災者と地域との交流活動に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。

補助対象経費

講師謝礼、使用料会場賃料、バス借上料、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、食材費及び茶菓代(ただし、自団体の弁当及び懇親会等の飲食代については、対象外とする。)、ボランティア保険料、その他事業に係る経費で市長が認めたもの。

補助金の額

補助対象経費相当額とし、1事業50万円、1団体100万円を限度とする。

【実績】1団体 9事業 705,314円